

# クロウミガメの出現記録の整理と黒潮流域のアオウミガメとの形態比較

東京大学大学院 農学生命科学研究科

修士課程 岡本 慶

## 【背景と目的】

アオウミガメは世界の熱帯域に広く分布している。その中には東部太平洋ではクロウミガメと呼ばれる形態のやや異なる集団があり、アオウミガメとの違いは地域変異や亜種レベルの過ぎないとの意見や別種とすべきとの意見があるが結論は出ていない。日本近海、特に黒潮流域においては数多くのアオウミガメに混じってクロウミガメも少数ながら確認されている。そこで、本研究では最終的には東部太平洋の試料を用いて種としての議論に決着をつけることを念頭に、これまでに日本近海で確認されたクロウミガメの記録の整理およびアオウミガメとの形態比較によって、その差異を明らかにすることを目的とする。

## 【研究の経過】

### 1. クロウミガメの出現記録の整理

出現記録は文献（石井，2008；亀崎ほか，1998；嘉陽ほか，2003；大牟田，2005）および過去に日本ウミガメ協議会に届いた情報からまとめた。1998年に八重山諸島で初めて確認されて以来、これまでに日本近海で確認されたクロウミガメは、25個体（29例）であった。発見時の状況は、捕獲・混獲18例（15個体）、漂着8例（7個体）、目撃2例（2個体）、剥製1例（1個体）であった。これらの発見場所は太平洋沿岸と南西諸島に集中していた。また、これらのうち直甲長を計測できた17個体の甲長は、 $703 \pm 140$  (min-max: 440-972) mmであった。

### 2. クロウミガメと黒潮流域のアオウミガメとの形態比較

高知県室戸岬の3つの大敷において、2009年4月1日から2009年12月28日までにアオウミガメ50個体、クロウミガメ2個体が混獲され、18個体のアオウミガメと2個体のクロウミガメについて詳細な外部形態の計測を行った。三重県紀北町の島勝大敷では2009年4月1日から2009年12月31日までに115個体のアオウミガメが混獲され、20個体について詳細な外部形態の計測を行った。クロウミガメに関しては上記に2個体を加えた6個体で詳細な計測を行った。正準判別分析による比較の結果、クロウミガメ・アオウミガメ間で、ある程度異なる可能性が示唆された。

## 【今後について】

室戸および島勝においてさらなる調査を重ね、計測個体数を増やしていきたいと考えている。また、クロウミガメについては、全国で確認されるたびに詳細な計測を行い、アオウミガメとの差異の有無を明確にしていきたいと考えている。

#### 引用文献

- 石井雅之. 2008. 神奈川県におけるウミガメ類の記録. 神奈川自然誌資料. (29): 83-89.
- 亀崎直樹・黒柳賢治・杉山重実. 1998. 八重山諸島近海で得られたクロウミガメ *Chelonia mydas agassizii* について. 爬虫両棲類学雑誌. 17(4): 178.
- 嘉陽宗幸・平手康市・菊川章・若月元樹・亀崎直樹. 2002. 沖縄県北部の漁港に定住するウミガメ. うみがめニュースレター. (56): 14.
- 大牟田幸久. 2005. 漁網に絡まって屋久島前浜に漂着したクロウミガメ. うみがめニュースレター. (63): 2-3.